水高同窓会報
第30号
発行所
水沢市竜ケ馬場
水沢高校同窓会
☎0197-24-3151

新しき変革の時を迎えて

同窓会長　及川　源悦郎

「禍福はあざなえる縄の如し」とは言うものの、新世紀がスタートしたこの一年はあまりにも「禍」ばかりが続いた感の否めない日々でした。しかし、視線を同窓生諸氏の動静に転じますと、同窓生初の国会議員誕生を皮切に、紅白歌合戦の司会、ニューイヤーオペラコンサートへの出演、人気お笑い番組への登場、ジャーナリストとしてアフガンでの取材等、全国レベルの活動をはじめ、県内では銀行関係の専務や常務、また理事長といった県経済界での中心的存在、アテルイ没後一二〇〇年顕彰運動や文芸・スポーツ界での多くの方々の活躍ぶりに、つい落ち込みがちの気分もどこかへ吹き飛んでしまいそうです。

とは言え、現在我々が直面している状況を思い、少し考えてみました。

我が国の近代史を振り返ると、地震、台風等の自然災害は言うに及ばず、戦争や不況等数々の大きな出来事に見舞われておりますが、中でも特筆すべきは「明治維新」と「太平洋戦争」、それに加えて現在のいわゆる「平成不況」の三つであろうと思います。

日清・日露の戦争、昭和不況、関東・阪神の大震災、数多くの台風・地震・津波等々は多くの方々を不幸のどん底に落とし込んだ大きな出来事であったことは言うまでもありません。しかし前述の三件は他と比較して大きな違いのある出来事だと思います。

今更述べるまでもないことですが、「明治維新」は、それまでの支配階級であった武士上位の社会を天皇制を中心とした社会にし、我が国を近代国家として世界に仲間入りさせるという変化をもたらしました。

敗戦に終わった「太平洋戦争」は、その結果として、大日本帝国の現人神であった天皇を国の象徴である人間天皇とし、言論の自由と平等、基本的人権を尊重の民主々義社会である新生日本国の誕生となりました。

お分かりのように、この二つは、それらが他と違って、日本の社会を構造的に、且つ質的に大きく変化させたということです。

IT革命とか構造改革なるものは、時には勇ましく、また明るい未来を思わせますが、実現の暁には前述の事件同様、現在とは全く異質と言っていい状態に私達の生活を変えてしまうことでしょう。パソコンや携帯電話等で象徴されるIT革命は、成程確かに便利ですが、言ってみればお互いが体温を感じ合いながらの人間関係を冷たい機械を通しての、しかも薄っぺらな言葉を用いての関係に変えてしまいつつあります。また構造改革の一つである規制撤廃は、結果的には弱肉強食の度合いを徹底し、東洋の美点の一つである家族主義的関係をこれまで以上に弱め、最悪の場合には皆無にしてしまうかも知れません。

私は構造改革の必要性を全面的に否定するものではありませんが、それが同時にもたらす社会の質的な変化に、あらかじめ十二分に留意し、どう対処していくかの心構えを日本人全員が、しっかり持っておかなければならないと思うのですが、皆さんは如何お考えでしょうか。

水高の活性化

校長　髙橋　滿

同窓会の皆様方からは、日頃から陰に陽に大変お世話になっております。心から御礼申し上げたいと存じます。特にも、創立九十周年記念事業推進に賜りましたご厚情に改めて感謝申し上げます。

去る平成十三年一月三十日には創立九十周年記念事業協賛会役員会が開かれ、事業報告、決算報告等がなされました。事業の残金については、水沢高等学校セミナーハウスに冷房施設を配備することに当てることが可決され、その業務は残務処理委員会を設置して引き継ぐことになりました。このように、周年事業が無事成功のうちに終了することができましたのも、及川同窓会長始め皆様にご尽力頂いたお陰でございます。有り難うございました。

さて、おめもじも叶わぬ会員の皆様には着任のご挨拶を申し上げることも無く打ち過ぎ、失礼を重ねて今日に至っておりますが、この度は紙上をお借りして申し上げる失礼をお許し頂きたいと存じます。

私は平成十二年四月から、前任の佐々木昭治校長の後を受けまして、高田高校から赴任いたしました。本校にお世話なりますのは、二度目でございます。最初にお世話になりましたのは、昭和五九年から昭和六三年までの四年間でございまして、その頃の水高は、高橋寿郎校長・伊藤梧郎校長の下に文武にわたって隆昌の一途を辿っておりました。生徒は進取の気性に富んでおり、覇気が感じられ、それは新任式の歓迎のエールに象徴されていたように記憶しております。

十二年ぶり本校に着任し、始業式、入学式、対面式、PTA総会、同窓会役員会、運動会と、一連の諸行事を進める中で、本校の校風、伝統と歴史の持つ重み、そして何よりも本校を支えるPTA、同窓会、地域の方々の本校に寄せる熱い思い入れは、些かも以前とは変わっていないことに感動を覚え、勇気づけられ、決意を新たにしたのであります。

四季の折々には、季節の移り変わる様をさりげなく映し出してくれる学園の素晴らしい自然環境もまた、変わらない水高の財産、宝でありますが、歳月の経過とともに変わりつつあるものもございます。生徒の覇気、進取の気性を感じたのが最初に赴任した際の新任式のエールであると先程述べましたが、この度の新任式では、腹の底から声を出す校歌の斉唱、体育館の窓ガラスを震わせるようなエールはすっかり影を潜めており、肩すかしを食ったような気分に襲われたのであります。

しばらく生活を共にすることで気づいたことは、生徒が登下校の際、車で送迎されていることが日常的になっていることでありました。このような光景は本校にだけ見られるものではなく、他の学校でも見られることであり、殊更問題視しなくてもよいことなのかもしれませんが、確実に生徒の気質が変わっている、保護者の意識も変わっている、更には、中学校、小学校といった段階での育ち方が、以前とは変わってきていることを伺わせるものでありました。水高生だけが、時代の変化、社会の変化から超然としているわけにはい

雪かきに励む水高生

かないことを裏書きしているものと受け止めなければならないことのように思います。

ご案内のとおり、現在国においても、また県においても、時代の進展、社会の急激な変化に対応して、さまざま改革が推し進められ、教育改革もまた、重要な改革の一つに位置付けられ、その真只中にあります。特にも、高等学校にあっては少子化、生徒数減に伴う再編成計画の実施と同時に、特色ある学校作りの推進が具体化しつつあります。さらに、このような改革に拍車をかける待ったなしの、平成十四年度からの学校完全週五日制の導入、再来年度からの新学習指導要領の実施がございます。

このような中にあって、本校に期待されている役割は何かと考えてみますと、それは本校の校歌にも歌われている先達、リーダー、他人のために汗を流す指導的な役割を果たすことのできる人材を育むことであり、これは時代の変遷を超えた、本校不易の校是ではないかと思料されるのであります。このような学校作りに同窓会、同窓の方々の役割は以前にもまして大きなものとなるという、期待が高まっております。

全国的に見ましても、学校の活性化、特色ある学校づくり、魅力ある学校づくり、あるいは開かれた学校づくりに、同窓会、同窓の方々との連携を深める取組が進められております。NHKで日曜日の午後六時の時間帯で行っている番組に、先輩が母校の小学校に出向いていって授業を行うというのがあります。これを高校で行うという取組であります。各界で活躍している先輩、と言っても、有名人とか、中央で活躍している先輩に限定するのではなく、一芸に秀でた人とか、社会の目立たないところで、こつこつと精進して社会に貢献している人とかを、母校にお呼びして、お話をして頂くというものです。このことをとおして、生徒のモチベーション、やる気、進路意識を高めるという取組であります。

これは、後輩にとって大変な刺激になるようであります。自分もあのような先輩のようになりたいという意欲が沸くそうであります。先輩の方々も、話を聞いてくれる相手が後輩だと思うせいか、損得を越えて熱が入るそうでございます。このような取組は本校でも行われていますし、他の学校でもやられていることなのですが、現在の進め方は、ややイベント的な、改まった行事の一環として行われており、もう少し、構えないで、一つの講座、授業のような形で進められることが考えられてよいのではないかと思います。学校週五日制の実施で、従来授業の行われた土曜日の新たな活用の中で工夫されていい取組のように思います。

そうなれば、名簿上の先輩・後輩、名簿上の同窓生から、顔の見える先輩・後輩、温もりを実感できる、同窓生意識が高まることが期待できるということでございます。先輩から人生の目標を教わる、生き方のヒントを与えられる、そのことで、自信や意欲の沸いた後輩が存分に活躍する、母校が活性化する、母校が発展する、そのことが今度は逆に同窓の方々に母校に対する誇りを感じさせる、そういう、双方向性の情報が発信され、先輩と後輩の固い絆で結ばれた同窓会の機能が益々発揮され、それが、学校の活性化に繋がる、そういうことが期待できるのではないかと思っております。

これからも学校の活性化を図り、本校が存在感のある学校として益々飛躍発展するよう、職員一同努力して参る所存でありますので、どうかこれまでにもましてご支援、ご協力、ご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。

運動会開会式にて

関東支部同窓会総会

平成十三年度総会

平成十三年度総会は八月十一日（土）「水沢北ホテル」で、澤藤稔先生（国語）、若槻隆雄先生（英語）を恩師としてお招きし、三〇数名のご出席をいただき開催されました。

及川源悦郎会長、高橋満校長の挨拶及び事務局からの経過報告に続いて協議に入り予算決算、事業計画がそれぞれ承認されました。

第二十九号でご紹介しましたように、セミナーハウスが六十周年記念館の跡に誕生しました。「水龍館」という名で、生徒の合宿等に大いに利用されていることが報告されました。同窓会としては、各部が積極的に利用できるよう援助することが承認されました。

来年度より学校五日制がいよいよスタートするにあたり、「水高活性化推進委員会」を設け、すべての学校行事の見直し作業が行なわれており、同窓会が主催しております開校記念講演会を来年度より形を変え行なうことになりました。OBの方々の豊かな学識、経験等に触れる機会を、「開校記念講演会」の形を小規模にして、各学年の要望に応じて志学館やセミナーハウス等を利用し、ロングホームルームの時間を活用して行ない、NHKの番組にあった「授業」を庶民化したものにしたいと考えています。これに伴い水高創立記念日の四月十五日は休日とし、新入生の応援歌練習後の区切りとし生徒の生活にゆとりを持たせることも可能になりました。以上総会において承認されました。

親睦会においては、恩師の二人の先生方は当時の水高をふりかえり懐かしいお話をしていただきました。澤藤先生も若槻先生も共にますますお元気で、現在お二人とも富士大学において、教鞭をとられご活躍中です。

その後親睦会は恩師を囲み、いつも変わらぬ和気あいあいのうちに進み来年の再会を固く誓いあって、校歌斉唱とエールの後、散会となりました。

▶開校記念講演会◀

「中国で感じたこと」

佐藤　英夫さん

今年の開校記念日は日曜日に当たったため、四月十三日（金）に繰り上げて講演会が催されました。

今回の講師には、高校第五回卒業生の佐藤英夫先生をお迎えしました。平成九年から二年間、「北京語言文化大学日本語科」で教鞭をとられた時の経験を基に、「中国で感じたこと」という演題でお話しいただきました。

講演は中国で暮らすことになったきっかけから始まり、中国の大学事情へと話が進みました。二％ぐらいの大学進学率で有名大学への受験競争も激しいため、学生は強いエリート意識を持ち熱心に勉強しているということです。

話題が日中の文化の違いに移って行くと、食事マナーや夫婦のあり方、物の売買のし方の違いなどをわかりやすく丁寧に話していただきました。登山家でもある佐藤先生は中国各地を旅したそうですが、最初は日本的なものが何でも中国にあることに驚いたといいます。そして、「日本人とは何なのだろうか。」と自分に問い掛け、むしろ日本に住んでいてはわからない日本のことを学びながらの旅だったと熱く語られました。

最後は日中関係の話題でしたが、「リメンバーパールハーバー」、「ノーモアヒロシマ」という二つの言葉を例に、「日本人は中国で日本が何をしてきたかを知る義務がある。中国という身近な国のことを忘れないで下さい。」という言葉で講演を結ばれました。

今回の講演では、日本にいてはなかなか知ることのできない中国のものの考え方や、日本に対して抱いている気持などを改めて教えていただきました。講演を快く引き受けていただきました佐藤先生に心から感謝申し上げます。

―生徒の声―

中国と日本の違い、特に、お金の感覚や、夫婦別性のこと、夫婦の関係、自己主張、買い物のことについて話していただきました。日本人は、お金持ちだと中国人に思われていて、値段が急に上がるときいたときは驚きました。

戦争の話もしていただきました。「何人もの中国人を殺した日本人をなぜ今、裁かないのか」中国人の疑問の声を聞かせてもらいました。

とにかく、たくさんのことに関して話して下さいました。中国に興味がわきました。

1―4　遠藤　直美

支部だより

盛岡支部総会

今年の盛岡支部の同窓会総会は七月十三日に、ホテルメトロポリタン盛岡にて開催されました。今年の総会には、岩手県立美術館館長の佐々木英也氏（高校三回、二十六年卒）をお招きし、スライドプロジェクターを駆使しての講演が行なわれました。同級生の平屋悦郎さんがユーモアを交えて佐々木館長を紹介した後、岩手が生んだ偉大な画家萬鉄五郎の作品についての講演が始まりました。東和町出身の萬鉄五郎が写実主義の画風からキュビズムを求め、前衛の道に進んだ過程をそれぞれの時代の作品を観賞しながら説明していただきました。彼が描いた数点の自画像の変化をヒントに、彼の技法作風の変化を追求し彼の生い立ちにも触れ、わかりやすく教えていただきました。常識を破る作品をつぎつぎと発表し、完成よりも冒険を求めた萬鉄五郎の生涯に心を打たれるすばらしい講演でありました。県立美術館のコレクションのほとんどが岩手出身の作家の作品で、全国的にも珍しい、又岩手県民にとっては貴重な美術館であるとの報告もありました。

懇親会の席では、水高野球部のために、多大なカンパを出席者の皆様から毎年いただいていることをご報告いたします。

名古屋支部総会

今年の水高同窓会名古屋支部の総会は、十二月一日、名古屋市熱田にあります大同特殊鋼健保会館にて行なわれました。名古屋を中心に多くの同窓生が集まり盛り上がりました。及川会長が水沢の町の様子を、持参してきた胆江日日新聞でお話しし、高橋校長は今の水高の周辺の様子、学校の取り組んでいる課題等を説明しました。

名古屋支部には、田中安明さん（高校十八回）を中心に卓球部のOBがたくさん活躍されており、水高卓球部がかなりお世話いただいております。それが今年度、新人戦団体優勝、東日本大会県予選個人優勝などの卓球部の大いなる飛躍の原動力となっております。東北高校選抜大会県予選においても団体優勝を勝ち取り、来年の高校総体で悲願の団体初優勝を達成し全員で茨城インターハイに出場することを目標に頑張っています。

懇親会におきましては、佐々木稔治支部長はじめ多くの方々によるカラオケ大会で楽しい一時を過ごしました。

江刺支部総会

五年ぶりとなる江刺支部総会を九月二十八日、ホテルニュー江刺新館イーズに於いて開催しました。

ご来賓として及川昭司教頭、及川源悦郎同窓会長、同窓会事務局の宮沢春吉先生、小野隆士先生をお迎えし、講演会講師の胆江日日新聞社佐々木隆男社長にもご臨席いただきました。また岩崎真平先生にも会員としてご出席いただき、総勢四十五名の参加となりました。

総会では、菊地俊夫支部長が再任され、役員・学年幹事を選出しました。また及川教頭より、祝辞と合わせて水沢高校の近況報告をいただきました。

総会後の講演会は、今年、胆江日日新聞社江刺支局を開設した佐々木社長（昭和四十年卒）にお願いし、「無宿諾」と題して、胆江日日新聞社に入る前の経験談や、社長になってからの、地元新聞としての役割や使命感、その目的を達成するための社内体制の改革や、最新ニュースを提供するためのシステム構築など多岐に渡り貴重なお話を聞くことができました。私も胆江日日新聞の一読者として、以前より最新情報が掲載され、また江刺の記事が充実している事を実感しております。

懇親会では、及川同窓会長より祝辞を頂戴し、江刺支部の集まりの良さをお誉めいただきました。懇親会は飲む程に盛り上がり、思い出話や近況について語り合い、また初対面の人とは名刺交換なども行なわれておりました。円卓テーブルを渡り鳥のように点々と歩き廻り、酒を注げば注がれるで、なかなか戻ってこれなかった人も多かったようです。最後は恒例の校歌斉唱となり、応援団経験者三名がステージに上がりタクトを振りました。やはり、若い順にタクトの振りがキビキビとしていましたが、日頃の運動不足のせいか、三名とも顔が真赤になり、酸欠状態になっていました。閉会後は、楽しい二次会へとそれぞれ消えて行きました。

関東支部総会

平成十三年度関東支部水高同窓会総会は、十一月十七日（土）東京都千代田区にあります経団連会館にて開催されました。八十名を超す同窓生が集まる盛況ぶりでした。総会では小野スミ子会長の挨拶に始まり、経過報告、会計報告、役員選出が行なわれました。関東支部には昨年囲碁部の生徒の全国大会の際、プロの棋士による指導を設定し激励していただきました。総会の後、会長のご子息である日本大学経済学部講師、小野健太郎氏による「不動産取引」日・独・中のお国柄」と題し講演していただきました。世界の国々のそれぞれの民法の歴史に触れながら、不動産取引の現状から裏話まで、お話くださいました。懇親会では、水高の校歌はもちろんのこと、すべての応援歌が全員によって斉唱され、「逍揺歌」の歴史や、その作詞をした阿部庄一郎先生の逸話など、当時の同窓生からお話していただきました。

最後は早稲田大学一年の加藤大智君による元気なエールで閉会となりました。

五十年目の卒業アルバム

第三回生卒業五十周年記念同級会

私達は昭和二十六年三月高校第三回生として水沢高校を巣立ちました。以来節目ごとに同級会をして来ましたが、今回は年齢からして最後になると考えてか現存二百二十人中百六人の同級生が、五月二十日に「渡り温泉」に集まりました。戦争、敗戦、戦後の混乱期を共に過ごした高校時代でしたので、今の様な立派な卒業アルバムなど有る筈も無く、僅かに全学年生徒が男女に別れて撮った一枚の集合写真が有るだけでした。これを機会にと運動会、修学旅行、各クラブのセピア色になった写真を捜し集めて「五十年目の卒業アルバム」を作り全員で懐かしみました。

会では当時まだ無かった校歌を練習してなんとか斉唱できる様になりましたが、圧巻は大ステージで繰り広げられた男女のスクウェアダンスでした。五十年前の運動会で町中の話題を集めたものでしたが、華やかな衣裳を身に纏った女性と上着を脱ぎ捨てた男性が高校時代の羞恥心を忘れたかの様に、古希であることも忘れたかの様に踊り回る姿に観る人たちも紅顔可憐の頃に戻って居る様子でした。唯だ張り切ってステージに登った男性たちが高校時代に体操の時間にダンスの練習をサボッたり不熱心な人達だったのが不思議です。懐旧は老いの表象かも知れませんが、しかし懐旧によって楽しく実り多い過去を持ち、懐旧の中に今でも生き生きと蘇って来る様な人達と逢えるということこそ人生の幸せに外かならない事を噛み締め、これを最後とせず再会を約した一夜でした。

（資料提供　平谷悦郎氏）

絵の御寄贈

内田不二子さん（高女第十一回、昭和十二年三月卒）から、母校水沢高等学校に絵画を寄贈したいとのご意思が伝えられたのは、平成十一年のことでした。ところが、その後不幸にも忽然とご逝去されました。平成十三年になりまして、不二子さんのご遺思を実現させるため、御親族の高橋寿先生（元水沢中校長）、佐和子さんご夫妻、不二子さんのご友人の青木須摩子さん、及川源悦郎同窓会長さん方のお力添えにより、志学館に掲示されることになりました。

絵画の作品名は、「秩父残雪」で梁川昭平氏（一関中卒）のものです。

図書館OBコーナーへ寄贈された本

（平成13年1月～14年1月）

◎「倚天屠龍記」(一)～(五)
著書　金　庸
訳者　岩上　治氏（高校15回）
（ペンネーム　林　久之）

◎「句集　ふるさと」
著者　小野弘子（高校9回）

◎「現代川柳の荒野」
著者　佐藤政彦（高校16回）
（ペンネーム　佐藤岳俊）

第二の人生 芸術で表現

水沢高生8回生

水沢高第八回卒業生（一九五六年卒）の作品展は十一月三日まで、水沢市佐倉河の市めんこい美術館で開かれている。県内外の同級生ら二十二人が自らの著書や絵画、書、陶器やリボンフラワーなど多彩な作品を出品。賛助出品した恩師も「とても立派な絵画だ」と教え子たちを称賛し、感激していた。

卒業から45年、市内で作品展

22人が詩や絵多彩に

主催は今年六十四歳という水沢高の第八回卒業生。高校時代から書き続けたという詩集、エッセー集や俳句集、出版した著書、欧州出張中に撮影したアルプスの写真、絵画は油彩、水彩、デッサンと作品は多彩だ。

「夫が亡くなりぽうぜん自失の時、これからの人生、何か打ち込めるものをと思って始めた」というリボンフラワーのブーケなど一つひとつの作品が出品者の人生を映す。

初日は同級生約五十人が駆け付けて開会を祝った。恩師の高橋力・元紫波町教育長（七二）は「作品を見て感動した。見事な企画だ。みんな第二の人生をはつらつと生きていると感じる。教師としてこんなにうれしいことはない」と祝辞を述べ、出席者を喜ばせた。

作品展は高校卒業後四十五年が過ぎ、千葉進さん（横浜市在住）が「元気なうちにみんなで作品を持ち寄って作品展をやってみないか」と発案、六人の幹事を中心に準備を進めた。

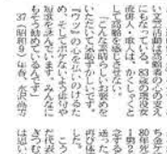
幹事長の阿部勝さん（水沢市）も「こんなに集まるとは思わなかった。激励の電話やメールもたくさんもらった。みんなが元気でいて第二回、三回と回を重ねていきたい」と充実感でいっぱいだ。

〔多種多彩な作品が見学者を楽しませている水沢高第8回卒業生作品展〕

（岩手日報　平成13年10月30日掲載）

'02 クローズアップ

「俳句や短歌は生き生きライフの応援歌」



ひと

金ヶ崎町句会「白糸会」会長
伊藤　節子さん

「ひらがめ赤よ」が明くなりましたが、原稿用紙のワクが見えなくなるまで頑張りたい。趣味は「木目込み人形つくり」。金ヶ崎町西根東小路。83歳。

長寿会員の中で、年齢とともに「生きがいを見つけた」と話す伊藤節子さん。

わら子どもの頃、「俳句は国語の時間にならべる」と言う年寄りを怒らせる。コイシレス・ライフ。このほど、その「俳句」を受けて、ライフに輝いた。

金ケ崎町で、戦後間もない1947（昭和22）年に結成された「白糸会」。俳句を上級者の指導者（現在は会員）に教えてもらい、一人ひとりが「俳句」を作る。「過去（昭和50）年をかなえる会員は高齢者の女性ばかりになっている。83歳の最高齢者は、ちょっとしんどくなってきたが、ずっと続けていたいと思っている。」

「ワンの会をたのしいものにしていたいと考えている。」

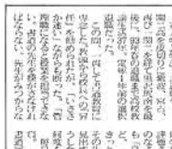
こんな楽しい会員の中で、年齢とともに高齢を感じる年になった。

「ワンの会をたのしいものにしていたいと考えている。」

「ひらがめ赤よ」が明くなりましたが、原稿用紙のワクが見えなくなるまで頑張りたい。

（C）

「書には線の動きと墨の変化を楽しめばいい」



ひと

毎日書道展前衛書審査会員
水沢書道協会会長
及川　禮助（おいかわ　ひろすけ）さん

書道芸術院理事、県書道協会理事・審査員、水沢書道協会会長、県工芸人出品会長。好きな言葉は「温故知新」。水沢市町、67歳。

毎日書道展（毎日新聞社）前衛部の審査員に就任した。

「書は線の動きと墨の変化を楽しめばいい」

「これも書道が、かなり進化したなと思わるまで10年近くなります。」

「書は『ますます変化はなさ』とわれるまで10年近くなります。」

「書は『ますます変化はなさ』とわれるまで10年近くなります。」

「書は『ますます変化はなさ』とわれ

表現力豊かな歌唱に高い評価

好きな日本人声楽家
福井敬さん（水沢出身）8位に
「音楽の友」ランキング

「今、いちばん活躍しているテノール歌手」として人気の福井さん

オペラ歌手として活躍する水沢市出身の声楽家で二期会会員、福井敬さん（38）＝東京在住＝が、クラシック音楽の月刊誌「音楽の友（音友出版社）」の21世紀総選挙アンケート「クラシック人気ランキング・あなたの好きな日本人声楽家」で、第8位にランクされた。「今、いちばん活躍している『テノール』のソリスト」と、関係者の評価は高い。その福井さんが5月5日午後5時半から、盛岡市・岩手県民会館で開かれる名曲の夕べ（東北電力創立50周年記念コンサート）で、自慢のテノールを披露する。

同コンサートは、1981（昭和56）年を皮切りに5年に一度、「あなたが選ぶ音楽ベストテン」としてわれている。演目は、好きな世界の「音楽家」「指揮者」「オペラ」「器楽奏者」「ある」は、好きな日本の「オペレーストラ」「器楽奏者」「声楽家」「作曲家」などを問わず27項目にも及ぶ。

5回目となる今回の発表は「音楽の友」4月号で発表、掲載された。

福井さんが初めてのランクインしたのは、好きな日本声楽家」の1位佐藤しのぶさん、2位佐藤美子さん、以下の鮫島有美子さん③田原多聞さん④中丸三千繪さん⑤佐野安雄さん⑥福敬さん⑦佐藤美枝子さん⑧佐野安雄さん⑨福敬さんと続く。ちなみに伊藤京子さんは15位、岡村喬生さんは18位、岡村喬生さんは15位となっている。

福井さんは、岩手水沢高校から国立音楽大学声楽科に進学し、同大卒業時に矢田賞を受賞。同大学院修了。二期会オペラスクールオペラ研修生を受け、93年第20回イタリア声楽コンクールで第1位、90年文化庁派遣芸術家在外研修員として1年間ミラノ留学。92年二期会新人賞を受賞。

明会創立40周年記念「ラ・ボエーム」（ロドルフォ役）で二期会オペラデビュー。93年「ジョコンド」（ルイジ役）で第20回オペラ賞新人賞を受賞。

93年「ジョコンド」（ルイジ役）、95年「ドン・カルロ」（ロドリゴ役）、95年「ドン・ジョバンニ」「魔笛」、95年「ドン・ジョバンニ」（ドン・オッターヴィオ役）、97年「マダム・バタフライ」（シャープレス役）など数々の作品に出演した。中でも、プッチーニ作曲の歌劇「トゥーランドット」（カラフ役）は絶品の当たり役として現在も演奏会などで歌唱し、表現力豊かな歌唱と将来性が高く評価されている。

福井さんの西洋人顔負けの容姿と、水沢市出身の西洋人顔負けの容姿と、仲睦まじい夫妻。「これからもおごることなくがんばってほしい」とランクインを喜んでいる。

福井　敬（高33回・昭56卒）

アフガン45日間
心の傷　いえる日は…

及川共同通信記者（出版部）寄稿

米国による対アフガニスタン攻撃が始まって、ちょうど1カ月。アフガニスタンでは、あの日、ニューヨークの世界貿易センタービルに突っ込んだ旅客機の乗っ取り犯とされるイスラム教徒の集団「アルカイダ」の拠点があるとされ、タリバン政権に対する攻撃が続いている。ペシャワール（パキスタン）に滞在中の及川共同通信記者が、アフガニスタンの難民キャンプを訪ね、「戦争」の現実を見てきた。

「戦争」担う前線の子ら

冬の訪れに備え、大人に負けじとあきらめない子どもたち＝アフガニスタン北部のダンタック難民キャンプ（共同）

▽長男の姿調

▽出せぬ答え

▽補給役も

心の傷　いえる日は…

「戦力」担う前線の子ら

▽長男の姿調

▽出せぬ答え

▽補給役も

及川　仁（高32回・昭55卒）

平成13年度　激励金交付一覧

交付日	部活	大会名	場所	備考
6／15	囲碁将棋	全国高校将棋選手権	福岡	男女団体
〃	弓道	東北弓道選手権	秋田	団体・個人（千田晃）
〃	〃	全国高校総体	熊本	千田晃
〃	卓球	東北卓球選手権	水沢	団体・個人6名
〃	囲碁将棋	全国高校囲碁選手権	東京	女子団体
〃	〃	〃	〃	千田晋平
〃	〃	全国高総文祭囲碁部門	福岡	千田晋平
7／13	水泳	東北大会	秋田	鈴木伸哉　遠藤聡子
7／27	美術	全国高総文祭美術・工芸部門	福岡	平澤和徳
8／3	かるた	全国高総文祭かるた部門	福岡	千田和泉
8／22	卓球	ミニ国体	福島	伊東伸也
〃	〃	国体	宮城	伊東伸也
〃	男子バスケット	ミニ国体	福島	鈴木幸也
9／20	女子サッカー	全日本ユース東北地区予選	宮城	山内紘子　桑島奈緒子　菅原早織　亀井悦子
10／26	囲碁将棋	東北高校囲碁大会	福島	菊地達哉
〃	かるた	東北新人大会	盛岡	千田和泉
11／26	卓球	全日本ジュニア卓球選手権	東京	伊東伸也　高橋謙太
12／17	文芸	全国高校文芸コンクール表彰	東京	小野寺智江
〃	囲碁将棋	東北将棋新人大会	秋田	菊池梢　千田智子
1／22	空手	東北空手道選手権大会	秋田	千田隆行
1／30	男子バスケット	東北新人大会	青森	
〃	〃	東北ブロック教化研修会	青森	黒沢至
〃	卓球	東北選抜卓球大会	福島	団体

ある時は親分、ある時は黒子にならないと、だれもついてきませんよ

工藤省治さん
（愛媛県伊予郡砥部町）
くどう・しょうじ（昭和2）年、砥部焼の陶芸家。昭和51年から毎年、砥部焼の作品展を水戸で開催。平成12年度通産大臣デザイン功労者賞受賞　砥部町在住

いんたびゅー No.96

工藤省治（高5回・昭28卒）

美術館は、「感動」を自己発見できる場所です

佐々木英也さん
（千葉県流山市）
ささき・ひでや（昭和2）東京都出身。東京都立大学卒。同学科修士課程1958年イタリア政府給費留学で1一年大学に学ぶ。61年国立西洋美術研究所、恩賜賞受賞。同大学教育学部教授。01年同大学名誉教授。01年10月6日から岩手県立美術館館長。江刺市生まれ。

当時の芸大は、学生60人に教員100人、日本一教授な大学でしたね

いんたびゅー No.102

佐々木英也（高3回・昭26卒）

挑む
キーマン登場 ～1～
2002年・新春編
広域合併
水沢商工会議所広域合併検討委員会委員長
依田英晴さん（63）
住民に正確な情報を

依田英晴（高11回・昭34卒）

「心の教室」は、心にたまったガス抜きの場です
鈴木　慧さん
（水沢市東上野町）
すずき・さとし（昭和）日本学校教育相談学会認定・学校カウンセラー。同会副学術委員理事長。平成11年度から東水沢中学校「心の教室」の相談員。同13年度から富士大学、青森北上高校の教育相談室相談

いんたびゅー No.89

鈴木　慧（高7回・昭30卒）

平成13年度部活動の記録

《運動部》

〈男子陸上競技部〉
新人大会　走り幅跳び　8位　菊池紘一郎

〈女子陸上競技部〉
新人大会　走り高跳び　8位　高橋摩帆

〈男子バスケットボール部〉
高総体　ベスト8
県民体　ベスト8
ミニ国体　鈴木幸也
岩手選抜選手として出場
新人大会　ベスト8
東北新人大会予選　2位（東北大会出場）
黒沢至
東北ブロック強化練習会参加

〈女子バスケットボール部〉
高総体　ベスト8
県民体　ベスト8
新人大会　ベスト8

〈男子バレーボール部〉
高総体　ベスト8（優秀選手　小島克也）
県民体　3位
新人大会　3位（優秀選手　村上雄樹）

〈男子卓球部〉
高総体　団体準優勝
ダブルス　柏山・伊東組3位
東北大会　1回戦敗退
シングルス　柏山3回戦進出
インターハイ東北ブロック予選
団体2回戦進出
県民体　シングルス　伊東伸也2位
全日本選手権予選
シングルス　伊東伸也優勝
高橋謙太3位
新人大会　団体優勝
シングルス　伊東伸也3位
高橋謙太ベスト8
ダブルス　伊東・高橋組2位
東京選手権大会県予選
シングルス　伊東伸也優勝
東北選抜大会県予選　団体優勝

〈女子卓球部〉
県民体　個人シングルス　村上真美ベスト16
新人大会　団体ベスト16
個人ダブルス　村上・高橋組3位

〈男子ハンドボール部〉
新人大会　ベスト8

〈男子バドミントン部〉
新人大会　ベスト8

〈女子バドミントン部〉
高総体　ベスト8
新人大会　ベスト8

〈女子サッカー部〉
県民体　優勝
新人大会　優勝

〈ラグビー部〉
新人大会　Aブロック昇格

〈男子柔道部〉
新人大会　個人戦100kg超級　菅原栄伸ベスト8

〈男子剣道部〉
高総体　ベスト8
新人大会　ベスト8

〈男子弓道部〉
高総体　千田晃個人優勝
東北大会　千田晃個人ベスト16
インターハイ　千田晃予選リーグ敗退
県民体　団体3位

〈女子弓道部〉
高総体　団体準優勝
東北大会　決勝トーナメント1回戦敗退

〈野球部〉
春季大会　2回戦敗退
夏季大会　2回戦敗退
秋季大会　地区予選敗退

〈水泳部〉
高総体　鈴木伸哉　100m自由形6位（東北大会出場）
遠藤聡子　100m自由形・バタフライ8位（東北大会出場）

〈空手部〉
新人大会　形の部3位　千田隆行（東北大会出場）

インターハイ出場を目指す卓球部

県高校選抜卓球
水沢男子が優勝
雪辱果たし東北大会へ

県立水沢高校の卓球部学校選抜卓球大会への出場を決めた。9、10日の西日、水沢市羽田町の市総合体育館を舞台に繰り広げられた県高校選抜卓球大会で、前回優勝の大男子が、第25回東北地区予選で敗退した雪辱を晴らし、2年ぶりの東北大会へ臨む。同部顧問の小坂信彦教諭は「普段の練習成果が出せれば、東北大会突破のチャンスも十分ある」と選手たちを激励する。

県大会には、新人戦ベスト16の県内強豪が出場。東北大会への男女各2つの切符をめぐり、火花を散らした。

決勝は、水沢、大野、水沢工、専大北上の4校によるリーグ戦。3人でチームを編成し、5ゲームで戦った。

水沢工大野戦は、しぶとなゲーム展開。2ゲームを落とした後、3ゲームを連取し、逆転で勝利した。正月を返上し自主的に練習を重ねてきた選手たちの粘りが、勝利につながった。同校は決勝リーグで、3校すべてに勝ち、優勝を果たした。

小坂教諭は「県大会優勝はひとつの通過点。東北大会出場校の実力はきっこうしている。油断すると、なぜ練習に励んでほしい」と話している。

新人大会3位で来年に燃える男子バレー

《文化部》

〈書道〉
高総文祭書道部門　千田智子　奨励賞

〈美術〉
高総文祭美術・工芸展　立体部門　特賞　平澤和徳
絵画部門　特賞　小野寺晴夏
特賞　田口信子

〈音楽〉
全日本合唱コンクール岩手県大会　銅賞

〈吹奏楽〉
吹奏楽コンクール岩手県大会　Aクラス銀賞

〈写真〉
高総文祭写真展　優秀賞（来年度の全国高総文祭出場）　鈴木聡子

〈囲碁将棋〉
岩手県高等学校将棋大会
男子団体戦1位
女子団体戦1位
全国高総文祭将棋部門
男子団体戦2回戦敗退
女子団体戦2回戦敗退
岩手県高等学校将棋新人大会
女子団体戦1位
個人戦　菊池梢2位
千田智子5位
東北地区高校将棋新人大会
女子個人戦
菊池　梢3位
千田智子5位
岩手県高等学校囲碁選手権大会
男子団体戦2位
女子団体戦1位
千田晋平個人戦2位
千田智子個人戦2位
永澤　桂個人戦3位
東北大会　千田晋平
岩手選抜として出場し3勝2敗
岩手県高等学校囲碁新人大会
男子団体2位
女子団体2位
個人戦
菊地達哉　2位（岩手選抜として東北大会出場）

〈文芸〉
高総文祭文芸部門
随筆
最優秀賞　夏井桃子
優良賞　橋階綾子
詩　優良賞　小野寺智江・黄金崎舞
文芸誌　優良賞
「夢想」第29～32号
全国高等学校文芸コンクール
詩　優良賞　小野寺智江

〈かるた〉
全国高総文祭かるた部門出場　千田和泉
岩手県新人大会　優勝　千田和泉（東北大会出場）

全国大会出場が期待される囲碁・将棋部

平成十三年度 職員異動

◆転入
及川　昭司（教頭）盲学校
鎌倉　道彦（数学）一関第一
小野寺敏光（数学）大東
夏谷　健一（地歴公民）高田
菅原　桂吾（国語）久慈
高橋　克壽（地歴公民）久慈
寒河江和広（英語）盛岡北
中村　智和（理科）大船渡
畠山　愛美（国語）新採用
葛岡恵美子（養護）大原商業
佐々木　博（事務長補佐）盛岡南
小野寺みち子（主事）水沢農業
泉　勝夫（国語）非常勤講師

◆転出
高橋　征二（教頭）一関第二
齋藤　岳城（国語）盛岡聾
齋藤　安彦（国語）高田
中田　康世（数学）黒沢尻南
鈴木　淳一（英語）宮古高
熊谷　拓也（地歴）盛岡第三
高橋　一成（理科）盛岡市立
佐々木明志（体育）盛岡第四
千葉　真英（数学）久慈
白山真知子（養護）千厩
佐々木洋貴（副主幹兼事務長補佐）花巻北
佐々木ルミ子（主事）沼宮内

◆退職
近藤　宇紘（地歴）

文化部部室が全天候のテニスコートに

昭和五十二年十月に水高の新校舎の落成記念式典が行なわれ、それまでの旧校舎（兵舎？）は取り壊されました。比較的痛みの少ない女子クラスの教室の一部は、撤去するにはもったいないということでプールの西側にそのまま場所を移動させて文化部の部室として長い間利用してまいりました。

しかしいまでは老朽化が進み、生徒の活動場所として決して安全な場所と言えない状態にありました。古い木造造りの校舎は火災等の面でも危険な状態にあり、このたび取り壊すことになり、その跡地に、全天候型のテニスコートが作られることになりました。

撤去された文化部部室

新しくできた2面の全天候型テニスコート

後輩も頑張っています

最近5年間の大学合格状況

大学名＼卒業年		13	12	11	10	9
国公立	延人数	132	136	149	129	149
	実人数	129	130	132	103	121
私立延人数		244	240	306	204	281
北海道		3	0	0	0	0
弘前		7	8	4	10	8
岩手		25	28	22	24	31
東北		9	13	11	7	14
宮城教育		2	1	5	2	5
秋田		5	2	4	5	5
山形		15	12	12	12	6
福島		9	11	6	2	10
茨城		4	4	9	6	7
筑波		1	2	3	3	5
宇都宮		1	2	3	2	2
埼玉		2	4	3	4	6
千葉		3	2	1	2	5
東北学院		26	27	31	14	24
慶応義塾		1	3	1	0	2
中央		7	8	2	6	3
法政		4	3	4	6	5
明治		12	7	5	4	7
早稲田		9	8	7	7	6
東大		0	0	1	0	1

編集後記

◆最近水高同窓会の名で、住所、電話番号（携帯）等を聞き出している業者が出没しているようです。九十周年事業としての名簿作成が終わっている現在、事務局は一切そのような調査はしておりませんのでご承知ください。又電話でそのようなことがありましたら、相手の電話番号を学校にお知らせください。

◆総会で申し上げましたように今年から開校記念講演会を形を変えて行ないます。「福祉」「町興し」「フリーター」「IT」「不景気」「大学全入時代」などタイムリーな話題に対応する講演会にし、大きく構えず、市職員の方、町のラーメンやさんのような、地元を支えている水高の先輩のお話を「出前授業」の形で行なっていただきます。講師の情報を事務局までお知らせください。

◆毎年暮れの紅白歌合戦を、今回は歌よりも司会の阿部さんへの応援をしてハラハラドキドキ過ごした同窓生が多かったのではないでしょうか。共に青春時代を水高で過ごしたたくさんの同窓生の思いが通じたのか、とてもすばらしい司会でした。阿部さん次回も頑張って。